

統合テーマ

「イギリス児童文学の原点と展開：家庭小説・冒険小説・創作童話・学校物語」

はじめに イギリス児童文学の始まりとジャンルの分化

川端 有子

伝承文芸→ チャップ・ブック→昔話の復活 →創作童話 →ファンタジー

福音主義の影響

ロマン主義の台頭

想像力の重要性

宗教的な物語 あの世の物語

教育的な物語 いい子・悪い子

日常の物語

女の子 家庭物語

男の子 学校物語

歴史物語
冒険物語

児童文学の中で続く二つの目的 instruction

entertainment

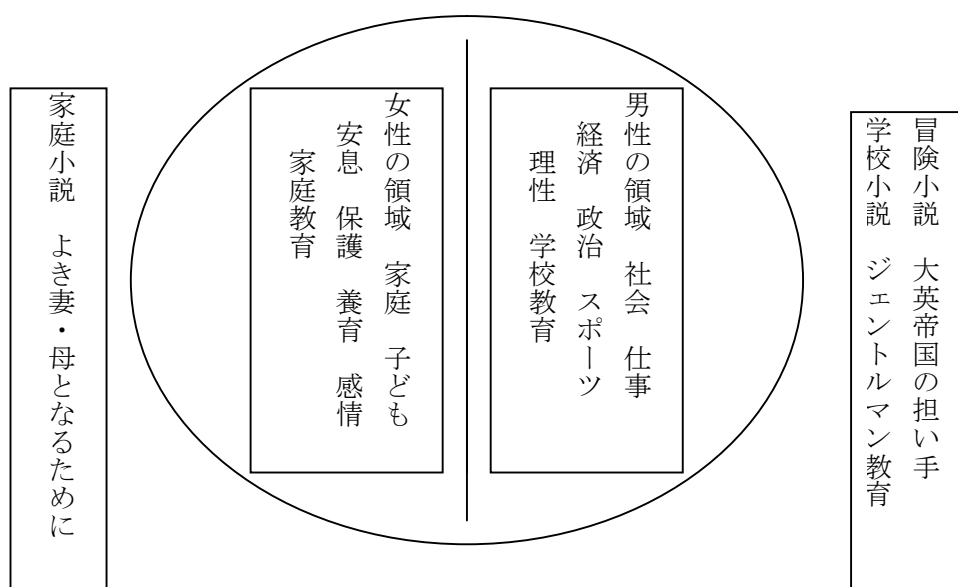
- ① 伝承文芸 口承で語られた神話・伝説・昔話
- ② チャップ・ブック 行商人が売り歩いた安価な木版画の物語 中身は様々だが昔話ものも多かった
- ③ 福音主義 聖書に基づく厳格な教えを強調するプロテスタントの一派。子どもに嘘を教えるとして、昔話を罪悪視した。一方、日曜学校運動を興して貧しい階層まで識字率を高めた。
- ④ 宗教的な物語 福音主義の教えに基づき、厳格な神の教えを説き、原罪をもって生まれてきた子どもを救うために、罪と罰の物語を語った。
- ⑤ 教育的な物語 子どもは「タブラ・ラーサ」(白紙状態)で、そこに何でも書き込める未知の可能性を持つとして、様々なことを教えるために物語を利用した。
- ⑥ ロマン主義の台頭 それまでの原罪を負った子どもという福音主義的な思想から一転して、子どもに神に近い聖性を認め、おとなを救ってくれる天使のような存在として崇め、「美しい子ども」カルトをつくった。想像力の力、個性の重視をもって、昔話の復活、ファンタジー誕生の基礎を作る。

創作童話 アンデルセンの英訳の影響から、おとなの小説家はその可能性を認め、昔話の形式を借りて、風刺や娯楽の短編を書き始め、やがて子どものための創作童話へ

ファンタジー 創作童話の短い話形から、長さや深さを獲得し、子どもを楽ませるための長編空想物語へ

日常の物語 ジェンダーによる分化

19 世紀イギリスの中産階級の子どもの生活



～20 世紀以降の展開をふまえて～ 2 日間の構成

家庭の崩壊・多様化

冒険小説・学校小説への女性の進出

創作フェアリーテイルズの流れ

ファンタジーの多様化・広範化・深化

①『ひなぎく的首飾り』から始まる系譜

②「ロビンソン変形譚」

③起源と現在

④学校物語と＜ハリー・ポッター＞